

書評 Book Review

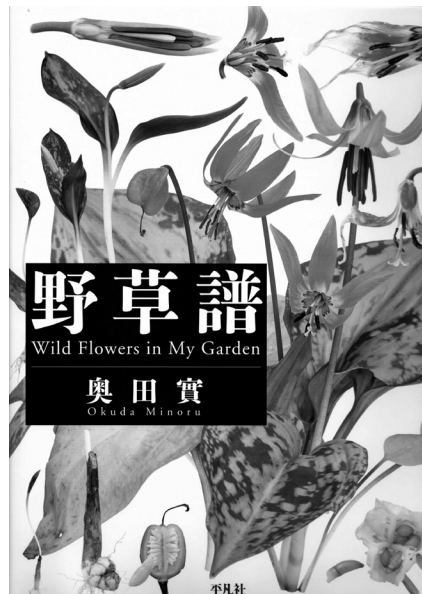
□奥田 實：野草譜 Minoru OKUDA: **Wild Flowers in My Garden** A4 判変型. 272 pp. 2021. 平凡社. ¥6,800 + 税. ISBN 978-4-582-54264-6.

大雪山の麓（北海道東川町）に移り住み、「北海道の原風景である森林を心象風景として表現すること」をテーマとした、『生命樹』、『野菜美』に続く著者の3冊目の写真図鑑である。全体に柔らかく、上品な調子で、一見彩色画のように見えるが、デジタル写真であり、著者自身は「ボタニカル・フォト・コラージュ」と呼んでいる。つまり、一旦撮影した画像をパソコン上で切り取り、それらのパーツを再配置したものである。

本書は英文タイトルにあるように、自宅の庭に出現した119種の植物を取り上げ、それらの生活史の全サイクルを紹介している。119種の中身は北海道原産の種が大部分であるが、一部帰化植物も収められている。構成は、見開きの2ページに1種を掲載し、偶数ページに該当種の解説や所感を記し、奇数ページが写真図版となっている。各種は、早春、春から初夏、盛夏、秋から初冬といった季節の移り変わりによって配列されている。

評者も研究の必要上写真を撮影することも多いが、言うまでもなく、そのレベルはこの著者の足元にも及ばない。どうしたらこのような写真が撮れるのか不思議である。

自宅という地の利を活かし、植物体の地下部を克明に再現しているところが植物学的にも参考になる。例えば、アキタブキ (p. 13), アズマイチゲ (p. 23), ヒトリシズカ (p. 39), コウライテンナンショウ (p. 85), サイハイラン (p. 103), コウヤワラビ (p. 115), オオウバユリ (p. 129), ツリガネニンジン (p. 211), ウド (p. 221), キクイモ (p. 255) などが特に素晴らしい。全体の画像としても、メマツヨイグサ (p. 149), ヨツバヒヨドリ (p. 165), イケマ (p. 167), オオイタドリ (p. 201) などが見



応えがある。特に、ヒメムカシヨモギ (p. 259) の画像に感銘を受けた。とにかく圧倒的な描写力である。また、ヤブマメ (p. 245) では地上の開花が結ぶ豆果と地下の閉鎖花が結ぶ豆果が見事に再現されている。全般的に、一般的に図鑑などに取り上げる機会の少ない、瘦果、分果、種子などが分かりやすく描かれているのが貴重である。

119種という数は自宅の庭ということを考えれば少なくないと思うが、このことに関連して著者は次のように記している。少し長いが引用すると、「(自宅の庭は) 移住当時、ササや大型の帰化植物、牧草に覆われたヤブであった。〈中略〉...林床を整えるためのササ刈りや帰化植物の撤去を続けた。林床が本来の自然環境を取り戻すにつれ、もともと自生していたと思われるフッキソウ、クルマバツクバネソウ...などが姿を現した。」庭の管理は楽ではないと思うが、北海道の自然はやはり豊かである。(門田裕一 Yuichi KADOTA)